

障害者の働きぶり見て

県ステップアップ大学

シグマフロンティアなど見学

元気で躍進 地域経済

県障がい者雇用・就労促進課が障害者雇用を定着させようと開いている「ステップアップ大学（企業出張版）」が8日、松阪市で初めて開催された。企業や自治体、教育機関などから28人が参加



し、同市松ヶ島町のシグマフロンティア（株）松阪作業所と、同市大口町の三重化学工業（株）内のシグマフロンティアBPO事業（構内請け負い）の現場を見学。三重化学工業本

社ミエラボでシグマフロンティアの前川とき子（49）が同社での障害者雇用の在り方を紹介した。同大学は、企業や県民

↑ ネットクラーの製造工程を説明する田村さん（右）と見学者ら
大口町の三重化学工業で

に障害者雇用への理解を深めてもらうと、2014（平成26）年度から県総合文化センター内のステップアップカフェ「だいたい食堂」で開催。企業出張版は昨年度から年2回ほど行っている。今回は企業5社の人事担当者ら9人の他、特別支援学校や就労支援事業所の教職員、障害者の家族らが参加した。シグマフロンティアは人材総合サービスのシグマグループ（本社＝東京都）の特例子会社（障害者雇用促進のため障害者を主体に雇用する子会社）で、松阪作業所を拠点にメーカーなどからの請け負い作業を行っている。

この日はまず同作業所で、菓子メーカーから請け負った製品の梱包（こぼろ）作業と、自動車部品の検査・梱包工程を見学。そこから約2・5キロ離れた三重化学工業内のBPO事業現場に移動し、熱中症対策で首回りを冷やすネットクラーの仕上げ・梱包工程を見学。シグマフロンティア作業員の田村吉邦さん（48）が「ミシン目が斜めになっていたり汚れたりしたしていないかチェックしています」などと作業内容を説明した。その後、ミエラボで事例紹介と質疑応答。県障がい者雇用・就労促進課障がい者雇用班の森下道大主幹兼係長（50）が司会進行。三重化学工業の山川大輔代表取締役社長（46）が自社紹介し「共創」という理念を強調。「仕事を通じて関わる人の幸せを高めていきたい。その輪の中にシグマフロンティアさんの社員さんも入って共創していきたい」と話した。シグマフロンティアの前川部長は同社の障害者

雇用の歩みを振り返り、2013（平成25）年の創業時は8人からスタートし、現在は50人の障害者が働いていると紹介。質疑応答で参加者の森永豊・百五管理サービス（株）代表取締役社長（62）から「作業の受け入れは可能か」との質問に答えて前川さんは「うちで働きたいという方はたく

さんいる。3月に3人、4月にも3人入社し、メンバーはそろっているのだからバランスを取りながら対応させてもらいたい」と話していた。シグマフロンティアの和田隆代表取締役社長（44）が「障害者の方の生きがいを追及し、共に成長していきたい」と語って締めくくった。